

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

自給飼料で高泌乳牛を飼養し地域内循環も構築した基本に忠実な骨太経営

- 氏名又は名称 谷 秀則・谷 珠美
- 所在地 熊本県山鹿市
- 出品財 経営（酪農）

○受賞理由

・地域の概要

山鹿市は熊本県の北部内陸部に位置し、耕地面積7,120haのうち水田が61.5%であり、野菜、畜産、米が農業産出額のそれぞれ、38.5%、26.6%、14.4%を占める。畜産の農業産出額は432千万円で、鶏、乳用牛、肉用牛、豚の順に産出額が多い。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

谷秀則氏は、昭和47年に就農し、56年に珠美氏と結婚を機に徐々に規模拡大をはかり40頭まで増頭した。平成4年に経営移譲を受け、平成6年に法人化を行った。平成18年に、長男の就農をきっかけに大幅な規模拡大を行い、作業性に優れた牛舎を整備した。平成23年度には経産牛平均飼養頭数119頭、年間出荷乳量120万kgを上回る経営を行っている。

・受賞者の特色

(1) 省力的な飼養管理でゆとりある経営

家族3人の労働力で最も効率的な作業が行なえるようにフリーバーン+パーラーの牛舎を建設した。これにより、朝夕の搾乳、飼料給与及び堆肥搬出作業は計7時間程度で、常雇用を入れず100頭以上を飼養している。牛群は、6群に分け、飼料給与作業の効率化、発情や疾病等の早期発見につながっている。さらに、哺乳ロボットも導入している。年間労働時間の平準化や、酪農ヘルパー制度の活用による定期休暇（夫妻は月2回、長男は月4回）確保などにより、平成23年度における一日当たりの平均労働時間は7.9時間/人と高い縮減効果を上げている。

(2) 自給飼料への取り組みと地域内資源循環の構築

トウモロコシを主体にイタリアンライグラス、飼料イネを地域の耕種農家やコントラクターと連携して生産し、TMRに調製することによって、年間を通して安定的に自給飼料を活用している。これら積極的な自給飼料生産の展開により、多くの粗飼料を自給し、購入飼料費の節減につなげている。また、自ら設立に貢献したバイオマスセンターから生産される堆肥を活用し地域内資源循環に取り組んでいる。

(3) 高能力牛群の造成

牛群検定を全頭実施し、的確な繁殖管理と計画的な牛群更新により、遺伝的能力を向上させ、経産牛一頭当たり1万kg超の高能力牛群を作り上げた。国産優良精液、雌雄判別精液を活用して牛群改良を進め、平成24年度には更新頭数の約6割が自家育成となっている。さらに、乳質面でも優れた成績を示しており、高い飼養管理能力が示されている。

・普及性と今後の発展方向

谷秀則・珠美夫妻は、地域の耕種農家やコントラクター等と連携して自給飼料を確保し、自ら飼料設計を行うことで高品質TMRを低コストに生産し、所得の増加につなげている。また、これら組織と連携して地域内資源循環を図っており、飼料高騰時代にあっても、耕畜が共存共栄を達成する地域農業の優良モデルになる普及性の高い事例といえる。